

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 89人

② 算数 89人

5 留意事項

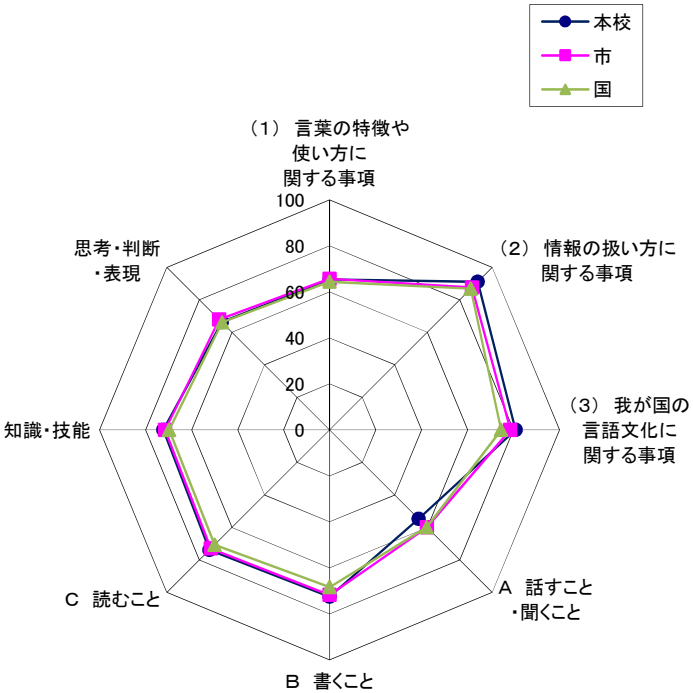
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.4	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	91.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.9	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	54.7	59.9	59.8
	B 書くこと	72.5	71.8	68.4
	C 読むこと	73.8	72.9	70.7
観点	知識・技能	72.3	71.5	69.8
	思考・判断・表現	66.3	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

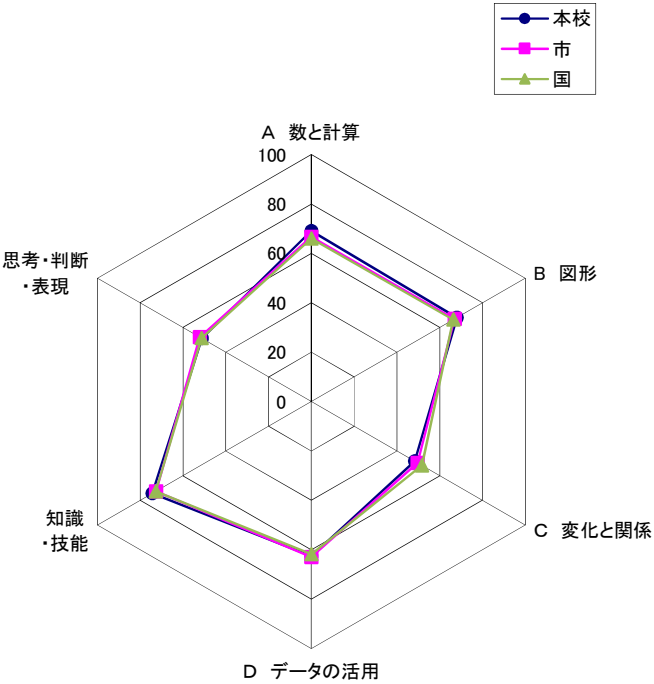
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	○言葉の特徴や使いに関する事項では、本校の平均正答率は65.4%で全国平均より1ポイント上回っている。 ●「漢字を使って書き直す」設問では、正答率が29.2%、無回答率が21.3%のものがああり、全国平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習においては、熟語や文章中での使い方に着目させ、適切に理解できるように指導を続ける。 ・普段の授業から国語辞典や漢字を活用し、言葉の意味や成り立ちを調べることの楽しさを味わわせるとともに、家庭学習でも進んで使うよう促すなどして、言葉への関心と語彙力を高めていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○情報の扱いに関する事項では、本校の平均正答率は91%で全国平均よりも4.1ポイント上回っている。	・要旨を捉える活動を多く取り入れて、得た情報の比較や分類、整理などが適切に行えるように授業を中心に支援していく。 ・原因と結果や意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係に着目させ、「話す・聞く」「書く」「読む」の言語活動の中で活用できるように指導を進める。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○我が国の言語文化に関する事項では、本校の平均正答率は80.9%で全国平均より6.3ポイント上回っている。	・日常的に読書に親しみ、本から言語文化について学ぶ姿勢を高めていけるように図書室を有効活用したり、市の図書館から調べ学習用の本を借りたりして幅広い分野の本に親しむことができるように学ぶ環境を整える。
A 話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことの本校の正答率は54.7%で全国平均よりも5.1ポイント下回っている。資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することや目的に応じて、集めた材料を分類・関係付けをして伝えたいことを明確にする設問の正答率が低かった。	・資料から分かったことを自分の言葉で書く活動を多く取り入れ、更にクラス内で共有する場を設定することで集めた材料を分類・関係付けをしなが、伝えたいことを明確にする表現方法を身に付けることができるように支援していく。
B 書くこと	○書くことの本校の正答率は72.5%で全国平均よりも4.1ポイント上回っている。 ○資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することや目的に応じて、集めた材料を分類・関係付けをして伝えたいことを明確に書くことでできおり、全国平均より9.6ポイント上回っている。	・字数やテーマなど条件付きの短い作文を書いて友達と読み合ったり、レクリエーション活動の一環として取り入れたたりして、書くことへの抵抗感を軽減し、楽しく書くこととする姿勢を育てる。 ・個人差が大きいので特に書くことが苦手と感じている児童に対して、型を提示して初めは型に沿った基本的な文章作成からスモールステップで自分の感情や思いを取り入れて書けるように支援していく。
C 読むこと	○読むことの本校の正答率は73.8%で全国平均よりも3.1ポイント上回っている。 ○「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」という設問では記述式の正答率が77.5%で全国平均より4.9ポイント上回った。	・説明的文章を読む際は、自分の身近な経験と結び付けて考えられるような授業の展開を行い、教材への関心や学習意欲を高めていけるような資料等の提示を行う。 ・読書や、音読・朗読の時間を設定して日頃から「読むこと」の楽しさを味わわせ、本に親しむ姿勢を高めていく。

宇都宮市立横川中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.1	66.7	66.0
	B 図形	68.0	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	48.3	49.6	51.7
	D データの活用	62.6	62.9	61.8
観点	知識・技能	74.4	72.6	72.8
	思考・判断・表現	51.2	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○数と計算の平均正答率は69.1%で、全国平均より2.5ポイント上回った。 ○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考慮し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を6ポイント上回った。 ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を5.9ポイント下回った。	・計算問題を解く力については理解をしているので今後も計算能力が向上していくよう継続して指導していく。 ・問題場面を読み、そこから式を導き出すことができるようにするために目的に応じた数学的活動を計画的に取り入れ、指導していく。
B 図形	○図形の平均正答率は68.0%で、全国平均より1.7ポイント上回った。 ○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題の正答率は全国平均を5.1ポイント上回った。 ●直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を2.4ポイント下回った。	・図形に関して基礎的なことは理解をしているので引き続き計算問題などを解き、能力が向上してよう指導していく。 ・どのように作図していくと正しい図形を書くことができるか1つ1つ理解をさせながら学習に取り組めるようにする。 ・作図の機会を増やし、継続して問題に取り組めるようにする。
C 変化と関係	○速さの意味について理解しているかどうかを見る問題の正答率は全国平均を3.2ポイント上回った。 ●変化と関係の平均正答率は48.3%で、全国平均より3.1ポイント下回った。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述させるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を10.8ポイント下回った。	・道のり、速さ、時間の関係が理解できていない状況であるため基礎的な計算をできるようにするために式だけでなく図なども用いて答えを求める学習を丁寧に指導していく。
D データの活用	○データの活用の正答率は62.6%で、全国平均より0.8ポイント上回った。 ●簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を1.4ポイント下回った。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を2.4ポイント下回った。	・グラフの数値を正確に読み取れるようにそのグラフの表す意味などを丁寧に指導していく。 ・必要なデータを正確に読み取り、記述につなげていくために個人活動だけでなくグループ活動なども取り入れ、様々な視点でグラフを読み取る力を養っていく。

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日朝食を食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の肯定的回答の割合は順に93.2%、85.3%、95.5%で全国の平均を上回っている。各家庭の協力を仰ぎながら、これからも規則正しい生活規則正しい生活の大切さを伝え、健康的な生活が送れるように指導していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的回答は96.6%と高かった。いじめゼロ集会や日頃からの取り組みが児童の意識を高めているので、これからも継続していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答は91%、「友達関係に満足していますか」の肯定的回答は98.9%ととても高く、充実した学校生活を送ることができている児童が多いことが分かるが、否定的な回答をしている児童の気持ちを受け止め、よりよい学級経営ができるように見取りを深めたい。

○ICT機器に関する質問に関しては、かなり活用できているという結果が出た。スライド作成や、スクールタクトの活用を学校でも積極的に実施することができていること、児童が自ら進んでタブレット操作のスキルを高めている望ましい傾向にあるので、マナーを守って使用することができるように見守り、支援していきたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答は83.1%とやや全国平均を下回った。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答が91%と高いので、更に友達や家庭でも自己肯定感を高めていけるような声掛けや人間関係を築けるように呼び掛け、支援していきたい。

●家庭学習に関する質問についての1日当たりの学習時間に関して2時間以上学習している児童が29%いるのに対して、30分以下と答えた児童が10.1%いるので、市で目安としている1日1時間がもっと定着できるように宿題や家庭学習について学級活動の時間を中心に考えさせ、意識が高まるように指導していきたい。

●国語の学習において、情報を整理することが苦手と考えている児童が多い結果となった。「好きである」と答えた児童も66.3%とやや低い。「国語の授業で学習したことは社会に出たときに役立つ」と考えている児童は97.7%と高いが、読み取りや文章を書くことを難しいと考えている児童に対して、スモールステップで基礎基本を身に付けていけるように丁寧に指導する必要がある。

●算数の学習において、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」という問いに対しての肯定的回答が65.2%でやや低い結果であった。算数を生活に生かしていこうという意欲は高い傾向にあるので、更に答えは一つでも考え方は一つではなく、多面的に物事を見て考える楽しさに気付けるように教材研究を深めていきたい。

宇都宮市立横川中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
各教科における基礎・基本の確実な定着	・話の聞き方や発表の仕方、ノートの取り方など基本的な学習態度や学習機能を身に付けさせる指導。 ・一人一台端末の計画的・積極的・効果的な活用と工夫・改善。 ・朝の学習における漢字・言葉・計算学習の実施。	国語・算数共に、正答率がほとんどの領域で県の平均を上回った。
自分の思いや考えを表現できるような学習指導の工夫と改善	・学校課題「主体的に考え、学び合う児童の育成」のための授業改善。 ・多様な考えに触れ、互いの良さを生かしながら協働して課題解決に取り組めるような学び合いの場の工夫。	「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の問いに対して、県の肯定割合を若干下回った。
豊かな心を育む表現力の向上を目指す読書指導の充実	・全校一斉読書の実施。（月、金曜日） ・チャレンジブックの実施。 ・読書週間の実施。（10月） ・読み聞かせボランティアを活用した読み聞かせの実施。（月1回通年）	「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。」の問いに対して、「0～10冊」と答えた割合は県のを下回り、「26～100冊」と回答した割合は最も高く、36%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では、話すこと・聞くことの本校の正答率は54.7%で全国平均よりも5.1ポイント下回っている。質問紙調査では、「国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか。」の質問に対して、「はい、または、どちらかといえば、はい」と答えた児童の割合は、84.3%で全国に比べて4.3ポイント上回っている。	各教科・領域の学習の中で、自分の意見や考えをもち、相手に伝える機会を計画的に設ける。	・日々の学習では、自分の考えを言語化する活動を取り入れる。 ・発表や説明をしたりする学習では、理由や根拠を明確にする。 ・目的意識をもって学習に取り組むようめあてを提示し、授業の終末では学習を振り返るようにする。 ・友達の発表を聞くときには、自分の考えとの違いを比べたり、気付きを大切にしたりする。